



第1回 終活相談会レポート 「お墓・お葬式」

令和5年9月10日、釣月寺本堂にて「お墓・お葬式」というテーマで終活相談会を実施し、ご家族を含めて24名の方にご参加いただきました。相談会では講師に寺院広報を代行する株式会社唯の代表で、僧侶でもある池谷さんに講演いただき、全国78人の檀信徒を取材した事例をご紹介いただきました。この度、講演いただいた内容を3回に分けてレポートします。今回のお題は「ご家族の声」です。

家族とお墓の相談ができる「お寺の住職」

終活について檀信徒ご本人だけでなく、ご家族も悩んでいることをご存知でしょう

か？当社が対面形式で20代から40代の23人にアンケート調査をしたところ、14人が「親の終活に関心はあるが、話す機会がない」と回答しました。20代男性の方から「もっと終活の必要性を行政やテレビ番組で発信してほしい」という意見をいただきましたが、終活の相談相手としてお寺の住職がいるという認識はなかったようです。とくに核家族化が進むとお墓の跡継ぎについて家族内で話す機会も減ることで、先祖代々のお墓をどうするか話し合ったことすらないというご家庭もあります。そんな環境のなかでも、お寺の墓地を持つ檀信徒は霊園や公営墓地と違い、住職に相談することができます。お寺の住職はお墓の問題について多くの檀信徒から相談を受けているので、さまざまなご家庭に合った対処法を知っています。日常的に住職に相

談事をしている檀信徒の方は、その周りのご家族や親族にも、住職が相談相手として存在していると理解いただいています。せっかくお寺の墓地を持っているのに、住職に相談しない檀信徒はもったいないと思います。

住職は先祖や家族まで見てくれる唯一の存在

終活相談会では「子どもが自分の葬儀をしない可能性はありますか？」という質問を参加者にお聞きしています。それに対し「やってくれると思うけど家族に聞いたことがない」という回答がもっとも多くありました。その反面、取材した寺院からは菩提寺に葬儀を依頼しない檀信徒が増えたと聞いています。この背景には、葬儀を依頼する檀信徒の後継者が住職の顔も名前も知らなかったからというコミュニケーションの問題があります。あるお寺に新規に入檀した檀信徒の取材では「菩提寺の住職をよく知らず、父の葬儀の時にも相談することができなかったので住職の顔が見えて相談しやすいお寺を新たに探した」とお聞きしました。この方は法事に必ず参列をしていましたが住職と一度も話したことがなかったとのこと。いまの若い世代の傾向として、人柄がわからない人にはたとえ菩提寺の住職でも信頼を置けず、相談されない可能性があることがわかります。

ある檀信徒から「うちの家族は法事しか住職と会う機会がなく、自分の死後は彼らが法事をしてくれるかはわかりません。自分が亡くなっても法事をしてほしいから子や孫にお寺の価値

を伝えていきます」と聞かせていただきました。檀信徒にとって菩提寺の住職は自分のことだけでなく、先祖や家族のことまで見てくれる他にない存在だと思います。葬儀やお墓について、自分にとって何が大切かを住職と一緒に話し合うのはいかがでしょうか？



参加者からの質問に回答する秋山住職



茶話会では終活について楽しく話し合いました



秋山住職からのメッセージ

コロナ禍ではお墓参りでお寺にお越しいただいた檀信徒様から、これからのお墓について数多くのお悩みをお聞きました。この度、全国のお檀家様を取材した池谷さんからお墓についての相談事例をご紹介いただきました。他の方の相談事例を聞けるのは釣月寺にとって参考になるので有り難いです。私も家族と一緒に先祖からのお墓を守る立場としてこれからも皆さんと一緒に話し合いたいと思います。

ご相談やご質問はお寺までご連絡ください。

臨済宗妙心寺派 釣月寺 tel:055-931-3378